

1 学校教育目標

豊かな心を持ち、創造的に たくましく生きる 児童の育成

2 本年度の重点

【目指す子ども像】

- お**もいやりのある子：(基本的な生活習慣を身に付け、ともに生きることを大切にし、感謝の心をもつ子ども)
- お**ちついて考える子：(自分のめあてを確かにし夢中で問い、つないで考え、活動し表現する子ども)
- た**くましく元気な子：(自ら心身の健康の状態に気を付け、運動や遊びをする子ども)
- こ**んたいづよい子：(最後まであきらめず取り組み、やり遂げる責任感の強い子ども)



【本年度の重点】

- ① 自ら考え進んで課題に取り組む児童の育成を目指す
- ② 「SDGsの視点を取り入れた教育の推進」(一人一人を大切にする学校を目指す)
- ③ 業務改善に取り組む学校を目指す



【目指す学校像】

- 子どもや保護者、地域から信頼される学校
- 清潔で美しく、温かみのあふれる学校
- 進んであいさつできる明るい学校
- 研究心にあふれ活力みなぎる学校



【目指す教師像】

- アイデアを出し合い、チームとして協力、協働できる教師
- 子ども・保護者・地域との関わりを深め、信頼と期待に応える教師
- 授業の創造と評価工夫・改善に努め、子ども一人一人のよさや可能性を伸ばす教師
- 課題を的確にとらえ、自ら、研鑽を積む教師

3 本年度の重点項目

- ① **わかる授業と家庭学習の充実を目指す。**
 - 各教科等の指導において、「合理的配慮」を具体化し、**わかる授業**を実践する。
 - 主題研究の推進…研究体制を確立し、各教科等を通して、児童に付けたい力(基礎学力)の焦点化、その力を付けるための授業改善に取り組む。
 - 全校体制で、若年者研修を充実する。
- ② **児童の特性へ適切に関わる。チームとして、教師相互が関わる。**
 - 児童一人一人の特性に応じた指導を行う。
 - 小学校教科担任制度を活かし、チームで学校運営に参画する。
 - 「いのち」をテーマとし、児童一人一人と地域の「ひと・もの・こと」との関わりが生ま

れた貴重な実践がある。この活動を継続して、児童のよさが生きる活動を工夫し、より豊かな活動への工夫・改善を図る。

- これまで「幼児教育連携推進事業モデル小学校区」として、第二明泉寺幼稚園、天籟寺保育所とともにやってきた、不安なく「つなぐ」取組を継続できるように取り組む。地域、保護者とていねいに関わる

③ **働きがいがあり、働きやすい職場づくりを目指す。**

- 綱紀肅正研修を計画的、日常的かつ適時実施する。
- 日常的な校内点検による平常と異常への気付きにすぐに対応する。
⑤最悪を想定、①慎重に、④素早く、⑥誠意をもって、⑦組織で対応
- 北九州市が目指す勤務時間外における在校時間の上限目標を達成できるように工夫する。

4 具体的な取組

① **基礎的・基本的な内容の確実な定着と学力向上・家庭学習の充実**

- 新しい時代に必要となる資質・能力のとらえを明確にし、児童の内発的な学習意欲を喚起し、**わかる喜びや達成感**のある指導の展開を図る。
- ひまわり学習塾や**家庭学習**を通して、児童一人一人の学習に対する意欲と基礎学力の向上を目指す
- 伝え合う力を育成するために、書く活動を重視した取組を継続的に行うとともに、自分の考えを確かにもたせ、**学び合う場面を重視**する。
- 体験的な学習や問題解決的な学習をできるだけ取り入れた授業の展開に努める。
- 小学校教科担任制度を実施することにより、教師一人一人の得意教科・領域を生かし、児童一人一人の**学習への意欲の向上**を図る。
- **校内研修、若年研修**の充実に努め、資質・能力等、教師力の向上を図る。

② **誰一人取り残さない教育（人権教育の推進）**

- ともに生きること、人のために働くことの尊さや喜びを実感させる場面を増やし、関わる人々からの共感的な評価を得ることで、充実感を味わうことができるようにする。
- 対人スキルアッププログラム（北九州子どもつながりプログラム）の活用を工夫する。
- 児童・教師全員がひたむきに働く「**掃除**」への**取組**を行う。日記・給食時間の話・遊ぶなど、学習指導以外での児童とのつながりを大切にする。
- 廊下や階段の正しい通行、場や相手に応じた正しい言葉遣いを職員全体で指導、徹底する。
- 「いのち」の授業→1・2年の生活科、3～6年の総合的な学習の時間を通して、「ひと・もの・こと」と関わり方を考え体験活動に取り組む。
- 開かれた学校づくりの一つとして、地域の教育力「ひと・もの・こと」を学校教育に生かせるよう、学校だより・学校ホームページなどを通して情報共有に努め、理解と協力を得られるようにする。

③ **働き方改革**

- 学年・学級相互に連携を保ちながら、よりよい学年・学級・教科等の経営を行う。そのために、学年打合せの時間を定例的に確保する。
- データの共有化や行事の精選、在校時間の意識化等により、業務改善を図る。
- 業務改善プロジェクトチームを立ち上げ定時退校日の実践を進める。